



健やか豆知識

第25回

Q. 子どもの発熱時に、 すぐに医療機関の受診が 必要な場合は？

- I 40℃以上の熱があり、頬が赤い
- II 顔色が青白く、呼びかけに応じない
- III 水分は摂れるが、食事を摂らない

タカちゃんママ タカちゃん



子どもが発熱したら、まずは様子をよく観察しましょう。

感染症とは、微生物が体内に侵入し感染することによって起こる病気です。感染症に対する抵抗力が発達途上にある子どもは、ウイルスによる鼻やのどのかぜ、胃腸炎やインフルエンザなど、さまざまな感染症にかかり、発熱することがよくあります。40℃以上の熱が出ると「脳に影響が及ぶのでは」と心配になり、夜間や休日でも急いで医療機関を受診したくなる保護者も少なくありません。しかし、高熱だけでは脳がダメージを受けることはありません。熱が高くても、頬が赤く呼びかけに応じる、食欲はなくても水分が摂れている状態であれば、診療時間になるまで(休日であれば1、2日)様子をみてもよいでしょう。

看病のポイントは、水分補給と全身状態の観察です。こまめに経口補水液などを飲ませながら、顔色が青くなっていないか、適度におしっこが出ているかをみてください。顔色が青白く、ぐったりしていて呼びかけに応じない、嘔吐や下痢を繰り返し、水分を受け付けない、また生後3カ月未満の乳児の場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

保護者は、感染症の感染経路を理解し、家族にうつらないように対策することが必要です。できれば病児も家族もマスクをして、看病の前後は十分な手洗いと手指の消毒をしましょう。感染者が使用したティッシュやマスク、汚物など、感染の可能性のある廃棄物は素手で触らないように使い捨てのビニール手袋を使用してビニール袋に入れ、密封します。また、共用部分(スイッチ、ドアノブ、テーブルや床など)は、ウイルスの種類によってノロウイルスは次亜塩素酸ナトリウム液、インフルエンザウイルスは消毒用エタノールなどでこまめに消毒するようにしましょう。

一番の対策は、日頃から感染症にかからないための習慣をつくることです。子どもと一緒に正しい予防法(手洗い、自主的なマスク着用など)を確認するとともに、「なぜ予防しなければならないのか」や「感染予防のための正しい知識」を家族間で共有できるとすてきですね。

監修 吉原 重美 獨協医科大学 小児科学 主任教授

< II 掘玉 >

さらに詳しい情報は
ホームページで!



高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください